

明治天皇大井行在所



明治天皇がお泊られた欄間が見事な座敷



大臣・参議勅任官室

「やんごとなき方のお宿」

この建物は中山道大井宿の中でも大きな旅籠だったところで、建築資材などの商いも営まれていました。江戸時代の終わりごろには屋号を「いけだ屋」とし、当主の伊藤弥兵衛が大井村の庄屋や宿場の役人をつとめていました。

明治に入ってからは村会議員となり、学校建設にも尽力しました。

明治13(1880)年6月に明治天皇が御巡幸の折伊藤家にお泊りになることとなり、急遽隣を譲り受け、三間続きの部屋や風呂、畳敷きの便所が新たに作られました。

明治42(1909)年、家の所有者が岩井家へと変わり、第二次世界大戦後は、主屋の一部が郵便局の分室や学習塾として利用され、その都度改築されました。現在は、明治天皇がお泊りになられた当時の状態に復元され、地域の方たちが利用できる交流の場として生まれ変わりました。

「御在所/天皇がお泊りになった座敷」

明治天皇が御巡幸の折に宿泊された部屋です。大正14(1925)年に発行された『岐阜県御巡幸誌』によると「白紙を以て四壁を張る」とあり、現在は白紙を張った部屋に復元されています。

奥には風呂、畳敷きの便所などが今も残っており、明治天皇がお泊りになった当時のたたずまいをご覧ください。



畳敷きの便所



浴槽

「長屋門」

大井宿本陣の表門の北にあった門と言われていますが、明治になって本陣制度が廃止された際に、古屋家が譲り受け、古屋家の裏門になっていました。

一説には、大きくて立派な門なので岩村城廃城の折、城の門が移築されたとも言われており、謎が残る門です。

建築年代は、門の飾り金具などから、江戸前期まで遡ることができます。移築元から門部分を切り取り設置されたことが調査で判明しました。

行在所横に設けた長屋に主要部分を移設しています。



長屋門

